

病理学・口腔病理学

実習

《担当者名》 特任教授/安彦 善裕yoshi-ab@ 講師/佐藤 惇j-sato@ 講師/吉田 光希denty@
 助教/森川 哲郎t-morikawa@
 非常勤講師/清水 重善 非常勤講師/青木 一太 非常勤講師/神野 由貴 非常勤講師/高橋 耕一
 非常勤講師/宇津宮 雅史 非常勤講師/中條 貴俊 非常勤講師/大西 綾 非常勤講師/高橋 周平

【概要】

口腔病理学実習の目的は病理総論及び口腔病理学の講義で学んだ病理学的概念を実際に顕微鏡観察し、視覚的に捉えることで、これら概念に対する理解を深めることにある。
 そのためには正常構造の復習は不可欠であり、併せて肉眼所見と病理組織所見の関連や臨床所見と病理組織所見との関連なども理解する。

【学修目標】

各疾患によって起こる細胞や組織の変化を正常組織と対比させながら理解する。
 病変のみならず、それに対応する全体の反応についても注意深く観察する目を養い、予後などの臨床的知識も身につけ説明する。
 炎症では急性炎と慢性炎の組織像の違い、腫瘍では良性と悪性の組織像の違いなど基本的概念を説明する。
 最低限、国家試験に対応出来るだけの範囲の各疾患の病理組織像を判断する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 退行性病変	演習の目的、レポート作成法などについて理解する。 重要項目の確認、レポート作成。 オリエンテーションで実習の目的を理解させ、実習に対する心構え、注意事項、準備すべきものを把握させる。 代表的な染色法であるH-E染色について理解を深めるため、ヘマトキシリンとエオジンの各単染色と二重染色を比較する。	安彦 善裕 佐藤 惇 吉田 光希 森川 哲郎
2	退行性病変 1) 変性 (1) アミロイド変性 a) 舌 b) 肝 (2) 脂肪変性 a) 肝 (3) 水腫変性 a) 腎 (4) 糖質代謝障害 a) 糖尿病性糸球体硬化症 2) 壊死 (1) 貧血性梗塞 a) 心筋梗塞	退行性病変は、生体の代謝異常によって起こる変化であり、これには変性、萎縮、壊死がある。この項では左記の項目について学び、その病態や病因についての理解を深める。 「新訂版歯学生のための一般病理組織アトラス」 P.1-P.16、P.17-P.24 (D-4-1) ~)	安彦 善裕 佐藤 惇 吉田 光希 森川 哲郎 清水 重善
3	増殖性病変 1) 再生と肉芽組織 a) 粘膜の創傷治癒(舌切傷) b) 骨折の治癒 c) 抜歯創治癒	1) 創傷の治癒、2) 欠損部の補充肉芽組織、3) 異物の処理、4) 炎症の修復過程に出現する肉芽組織について、その組織学的所見を把握させる。 口腔領域に関連深い骨折の治癒過程、抜歯創の治癒過程について理解させる。 潰瘍、特に、粘膜の潰瘍とはいかなるものか理解させる。 「新訂版歯学生のための一般病理組織アトラス」P.24-P.32 ○「口腔病理アトラス」P.87、P.88 (D-4-2) ~)	安彦 善裕 佐藤 惇 吉田 光希 森川 哲郎 青木 一太
4	炎症 1) 非特異性炎 (1) 急性炎 a) ラット足蹠カラゲニン注射、	炎症 では 急性炎の組織所見、膿瘍と蜂窩織炎との違い、劇症肝炎の組織像について理解し説明できる。 「新訂版歯学生のための一般病理組織アトラス」P.	安彦 善裕 佐藤 惇 吉田 光希 森川 哲郎

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	ハムスター口腔粘膜 b) 急性気管支肺炎と膿瘍 c) 蜂窩織炎 d) 劇症肝炎 e) 急性歯髄炎 f) 急性化膿性歯髄炎	33-P.46 (D-4-4) ~) 齶蝕に続く歯髄の炎症について、齶蝕病巣とともに歯髄の変化を観察する。また、病理組織学的分類について学ぶ。 「口腔病理アトラス」P.59-P.60 (F-3-3)-(2))	神野 由貴
5	炎症 1) 非特異性炎 (1) 慢性炎 a) 慢性胃炎 b) 慢性耳下腺炎 c) 単純性リンパ節炎 d) 慢性潰瘍性歯髄炎 e) 慢性増殖性歯髄炎	炎症 では慢性炎症について観察し、急性炎症との違いについて理解し説明できる。 「新訂版歯学生のための一般病理組織アトラス」P.33-P.46 (D-4-4) ~) 齶蝕に続く歯髄の炎症について、齶蝕病巣とともに歯髄の変化を観察する。また、病理組織学的分類について学ぶ。 「口腔病理アトラス」P.61-P.62 (F-3-3)-(2))	安彦 善裕 佐藤 惇 吉田 光希 森川 哲郎 高橋 耕一
6	炎症 2) 非特異性炎 a) 歯根肉芽腫 b) 歯根嚢胞	炎症 では、歯髄炎から移行する根尖性歯周炎について観察し、その分類や転帰について学ぶ。 「口腔病理アトラス」P.66-P.68、P.189-P.190 (F-3-3)-(2))	安彦 善裕 佐藤 惇 吉田 光希 森川 哲郎 宇津宮 雅史
7	炎症 3) 肉芽腫性炎(特異性炎) a) 結核性リンパ節炎 b) 結核症(副睾丸炎) c) サルコイドーシス	炎症 では、慢性炎の組織所見、特異性炎、特に、結核、サルコイドーシスの基本構造について学び、では急性炎との違い、では非特異性との違いについても理解させる。 「新訂版歯学生のための一般病理組織アトラス」P.33-P.46 (D-4-4) ~)	安彦 善裕 佐藤 惇 吉田 光希 森川 哲郎 中條 貴俊
8	腫瘍 1) 良性腫瘍 (1) 上皮性 a) 乳頭腫(口唇) b) 濾胞状腺腫(甲状腺) c) 腺腫(大腸) (2) 非上皮性 a) 血管腫、毛細血管型 b) 血管腫、海綿状型 c) 線維腫 d) 神経鞘腫 e) 神経線維腫 f) 子宮筋腫 g) 粘液腫(中心性) (3) 混合性 a) 線維腺腫 b) 骨軟骨腫	腫瘍 では、腫瘍とはいかなるものか、上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍および混合性腫瘍について、腫瘍の実質と間質について組織学的にはどうなのか、腫瘍の基本事項について理解する。 また、左記の良性腫瘍の各々についてその組織学的特徴を捉える。 「新訂版歯学生のための一般病理組織アトラス」P.47-P.56、P.93-P.94 「スタンダード病理学」P.240-P.241、P.264-P.270 (D-4-5) ~)	安彦 善裕 佐藤 惇 吉田 光希 森川 哲郎 大西 綾
9	腫瘍 1) 良性腫瘍 (1) 上皮性 a) 乳頭腫(口唇) b) 濾胞状腺腫(甲状腺) c) 腺腫(大腸) 2) 悪性腫瘍 (1) 上皮性 a) 扁平上皮癌(舌) b) 腺癌(胃)	この項では 腫瘍 の良性腫瘍と比べ、特に上皮性悪性腫瘍の特徴について学ぶ。また、転移の概念、原発巣と転移巣の組織学的所見についても学ぶ。 鍍銀染色を観察して、上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の構造の違いを学ぶ。 ケラチン免疫染色標本を観察し免疫染色の有用性を理解する。 「新訂版歯学生のための一般病理組織アトラス」P.64-P.81 「スタンダード病理学」P.243-P.244	安彦 善裕 佐藤 惇 吉田 光希 森川 哲郎 高橋 周平
10	腫瘍 2) 悪性腫瘍 (2) 非上皮性 a) 骨肉腫	腫瘍 では左記の非上皮性腫瘍の悪性腫瘍と特殊な悪性腫瘍の特徴について学ぶ。 「新訂版歯学生のための一般病理組織アトラス」P.57-P.63、P.77、P.82-P.92	安彦 善裕 佐藤 惇 吉田 光希 森川 哲郎

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	b) 軟骨肉腫 c) 悪性黒色腫 (3) 特殊な悪性腫瘍 a) 肝硬変と肝癌 b) 非ホジキンリンパ腫 c) ホジキンリンパ腫 d) 慢性骨髄性白血病	(D-4-5) ~)	
11	実習試験 顕微鏡・標本清掃	実習全体の理解度を確認する。 病理実習で観察使用した標本と顕微鏡の清掃を行う。	安彦 善裕 佐藤 惇 吉田 光希 森川 哲郎

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

試験(100%)

〔前期〕前期は中間試験および定期試験を行う。中間試験および定期試験の得点を同一基準で評価し、両者の平均点により前期成績を算出する。前期成績が60点以上の場合を合格とする。なお、中間試験および定期試験は、筆記試験および歯科医師国家試験形式の多肢選択式問題(単一選択・複数選択)を用いて実施する。

〔後期〕後期は実習試験および定期試験を行う。実習試験および定期試験の得点を同一基準で評価し、両者の平均点により後期成績を算出する。後期成績が60点以上の場合を合格とする。なお、定期試験は、筆記試験および歯科医師国家試験形式の多肢選択式問題(単一選択・複数選択)を用いて実施する。実習試験は、歯科医師国家試験形式の多肢選択式問題(単一選択・複数選択)を用いて実施し、課題提出状況、実習出席状況についても評価の対象とする。

〔年間成績〕前期成績および後期成績を同一基準で評価し、両者の平均点により年間成績を算出する。年間成績が60点以上の場合を合格とする。

【教科書】

「スタンダード病理学」下野 正基 編 学建書院
「口腔病理アトラス」第3版 高木 實 編 文光堂
「新口腔病理学」第2版 下野 正基・高田 隆 編 医歯薬出版

【参考書】

「疾病の成り立ちと回復の促進[1]病理学」医学書院
「臨床口腔病理診断学」下野 正基・賀来 亨 監訳 医歯薬出版
「口腔病理カラーアトラス」石川 梧朗 編 医歯薬出版
「新訂版歯学生のための一般病理組織アトラス」賀来 亨・山本 浩嗣 編 永末書店

【備考】

本実習では、バーチャルスライドを用いて病理組織観察を行う。PC、タブレット端末等を用意することが望ましい。

【学修の準備】

事前に講義資料、教科書、アトラスを用いて予習して実習に臨む。(80分)
実習後は、実習書を完成させ復習も行い提出期限までに提出する。(80分)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。

(専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力)

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。

(科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢)

【実務経験】

安彦 善裕(歯科医師)、佐藤 惇(歯科医師)、吉田 光希(歯科医師)、森川 哲郎(歯科医師)、
清水 重善(歯科医師)、青木 一太(歯科医師)、神野 由貴(歯科医師)、高橋 耕一(歯科医師)、
宇津宮 雅史(歯科医師)、中條 貴俊(歯科医師)、大西 綾(歯科医師)、高橋 周平(歯科医師)

【実務経験を活かした教育内容】

病理専門医および医師・歯科医師としての医療機関での実務経験を活かし、特に歯科治療において実際に経験することの多い疾患について効果的な教育が期待できる。

(2026年度・歯学部)

非常勤講師においても、全員が歯科医師でありまた日常的に歯科医院にて実務を行っている者が多く、歯科治療における口腔病理学的知識の必要性をより実感させることができる。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している